



駿其子種活

義集

4
775
177



4曾4
775
177

駿基雜話卷二目錄

義集

武運の統方古

天人相勝

鈴木某^の歌

不收不求

秘事^を健

仁心のいのち

浩然乃氣

民を王者の天

吾恩の報

差此浮世

朝うふの花一時

春秋乃あはれをい

佛よあはれをい

義ハ心持きま

敬の工夫

富士のまを望



駿其玉雜話卷二

武運の紀方ね



あつりやういへ武運の場よりゆりふ箱々菴素と例の文談ふ
及なり箱々やう武運を名の家業とらふは道に常と紀方ね
本之紀武運と武運といふはさういふ事とらふは箱々武運
より武運ハ正に本とらふはさういふ事とらふは武運ハ正に
正とらふ武運は正に何の治ある事長洲の合戦と武運とらふ
お物なしく鬼武運といふはさういふ事とらふは武運ハ正に
さういふ事とらふは武運ハ正に武運ハ正に武運ハ正に武運ハ正に
武運ハ正に武運ハ正に武運ハ正に武運ハ正に武運ハ正に
右一はさういふ事とらふは武運ハ正に武運ハ正に武運ハ正に
うらまへ武運の紀方ねとらふは武運ハ正に武運ハ正に武運ハ正に

事なり聖人の教も君子のちもたれたるまじきしめく其上吉山禰
福ハ天よまうするおまはる事なりいんやたを人の尚必の申は
まハ福と得んく善と命一福とおそく悪と命ぬくくまはるは
よの原に孔孟の人と教はんとんく福は福徳のゆはよな事なり
高書に於て天ハ福は福徳とんくまはるまじきとんく志願なるは
よ命に於てまはるまじきとんく命に於てまはるまじきとんく命に於て
半道に於て方便をまはるまじきとんく同日の法にまはるまじきとんく

天人相勝

翁がまはるまじきとんく人衆勝天天定勝人そハ伍子胥吳王闔閭
とすくやく楚國よ及入父兄の仇はまはるまじきとんく舊君よまの墓とあ
まはるまじきとんく伍子胥旧友申包胥平王の長よりし
あまの事まはるまじきとんく伍子胥よまはるまじきとんくやまはるまじきとんく古今の名言と

一王を必人あり邪を正に敵せん然とも人衆を以て勝感無かれ
分とてまはるまじきとんく王は勝半もはるまじきとんく天のいさむ定まらる
肉のりなり天定まらるまじきとんく人衆を以て勝感無かれ
自然の功を以て人衆の功を以て勝感無かれ其験にゆきまはるまじきとんく
縦ると人あり眼とて天道と競ふれまはるまじきとんく自らまはるまじきとんく
善悪の報はれ事とんく道一はるまじきとんく善悪を善とてはるまじきとんく
悪とてはるまじきとんく善悪を善とてはるまじきとんく天定まらるまじきとんく
物とてまはるまじきとんく顔回の矢盜跖を以て天の定まらるまじきとんく
まはるまじきとんく其後天の定まらるまじきとんく顔回の一簞の食一瓢の飲陋
巷に窮居せし其名今も日月と俱に垂て子載朽す
あつと盜跖ハ聚斂子人天下に横行せし其才死して肉も寒
まらるまじきとんく遺臭百世に

後世の事一もいんそとてス終(天の顔回)報する事早一
て帝一とせん盗賊の報する事早一と厚とせんその上顔回
盗賊のよく言恩の報おとさる稀なりそ世法とス言恩
の報報的(たいてい)なりし何う又三月くくもそきもあれそ身よ及こぬも
何しとそきも何因(原因)賦(賦)吏(吏)多(多)く前後罪(罪)又(又)た(た)る(る)こ(こ)も(も)
何しと何と(何と)い(い)て(て)予(予)く(く)あ(あ)る(る)こ(こ)郡(郡)縣(縣)の(の)租(租)稅(稅)金(金)穀(穀)の(の)出(出)納(納)
年(年)と(と)種(種)く(く)限(限)ぬ(ぬ)稠(稠)疊(疊)する(する)な(な)る(る)の(の)文(文)互(互)紛(紛)糾(糾)の(の)金(金)銀(銀)の(の)出(出)入(入)
何(何)の(何)も(も)も(も)大(大)可(可)々(々)と(と)知(知)る(る)小(小)人(人)を(を)利(利)欲(欲)の(の)こ(こ)も(も)よ(よ)き(き)
ほ(ほ)れ(れ)と(と)大(大)揮(揮)金(金)と(と)ん(ん)く(く)多(多)く(く)智(智)と(と)回(回)一(一)ほ(ほ)ひ(ひ)き(き)ふ(ふ)官(官)賦(賦)と
私(私)して(して)妻子(妻子)と(と)や(や)う(う)一(一)幸(幸)侮(侮)と(と)き(き)し(し)れ(れ)も(も)の(の)跡(跡)え(え)ぬ(ぬ)を(を)
恬(恬)然(然)として(して)自(自)ら(ら)計(計)と(と)け(け)ら(ら)ん(ん)其(其)内(内)何(何)れ(れ)も(も)罪(罪)又(又)い(い)ふ(ふ)も(も)

七(七)は(は)れ(れ)そ(そ)ま(ま)は(は)る(る)人(人)の(の)文(文)多(多)ぬ(ぬ)こ(こ)と(と)多(多)く(く)己(己)の(の)智(智)又(又)自(自)慢(慢)して
何(何)れ(れ)懲(懲)戒(戒)む(む)る(る)心(心)か(か)一(一)され(され)と(と)方(方)足(足)と(と)して(して)予(予)の(の)い(い)つ(つ)多(多)う(う)ぬ
一(一)と(と)何(何)の(何)一旦(一旦)も(も)何(何)の(何)其(其)理(理)み(み)て(て)礼(礼)節(節)を(を)守(守)り(り)て(て)命(命)終(終)屋(屋)上(上)
勘(勘)定(定)は(は)漏(漏)る(る)こ(こ)も(も)六(六)智(智)と(と)計(計)と(と)施(施)と(と)事(事)は(は)く(く)る(る)女(女)利(利)勿(勿)と(と)あ
一(一)は(は)れ(れ)と(と)く(く)さ(さ)る(る)に(に)ほ(ほ)く(く)の(の)を(を)と(と)ん(ん)一(一)事(事)の(の)終(終)り(り)の(の)事(事)を(を)
修(修)も(も)也(也)也(也)終(終)た(た)免(免)る(る)に(に)一(一)事(事)も(も)一(一)因(因)縁(縁)の(の)上(上)に(に)る(る)事(事)も(も)不(不)可(可)成(成)事(事)も(も)不(不)
下(下)事(事)ハ(ハ)ぐ(ぐ)の(の)と(と)く(く)事(事)の(の)言(言)不(不)依(依)よ(よ)と(と)難(難)し(し)き(き)一(一)い(い)し(し)や(や)天(天)を(を)
四(四)海(海)國(國)と(と)徧(徧)覆(覆)一(一)戎(戎)德(德)万(万)も(も)な(な)る(る)人(人)と(と)い(い)は(は)る(る)い(い)も(も)莫(莫)大(大)の(の)
下(下)事(事)は(は)り(り)て(て)予(予)の(の)事(事)を(を)告(告)ぐ(ぐ)る(る)事(事)も(も)不(不)可(可)成(成)事(事)も(も)不(不)可(可)成(成)事(事)も(も)不(不)
一(一)は(は)れ(れ)と(と)く(く)さ(さ)る(る)に(に)ほ(ほ)く(く)の(の)を(を)と(と)ん(ん)一(一)事(事)の(の)終(終)り(り)の(の)事(事)を(を)
下(下)事(事)ハ(ハ)ぐ(ぐ)の(の)と(と)く(く)事(事)の(の)言(言)不(不)依(依)よ(よ)と(と)難(難)し(し)き(き)一(一)い(い)し(し)や(や)天(天)を(を)
四(四)海(海)國(國)と(と)徧(徧)覆(覆)一(一)戎(戎)德(德)万(万)も(も)な(な)る(る)人(人)と(と)い(い)は(は)る(る)い(い)も(も)莫(莫)大(大)の(の)
下(下)事(事)は(は)り(り)て(て)予(予)の(の)事(事)を(を)告(告)ぐ(ぐ)る(る)事(事)も(も)不(不)可(可)成(成)事(事)も(も)不(不)可(可)成(成)事(事)も(も)不(不)
一(一)は(は)れ(れ)と(と)く(く)さ(さ)る(る)に(に)ほ(ほ)く(く)の(の)を(を)と(と)ん(ん)一(一)事(事)の(の)終(終)り(り)の(の)事(事)を(を)
下(下)事(事)ハ(ハ)ぐ(ぐ)の(の)と(と)く(く)事(事)の(の)言(言)不(不)依(依)よ(よ)と(と)難(難)し(し)き(き)一(一)い(い)し(し)や(や)天(天)を(を)
四(四)海(海)國(國)と(と)徧(徧)覆(覆)一(一)戎(戎)德(德)万(万)も(も)な(な)る(る)人(人)と(と)い(い)は(は)る(る)い(い)も(も)莫(莫)大(大)の(の)
下(下)事(事)は(は)り(り)て(て)予(予)の(の)事(事)を(を)告(告)ぐ(ぐ)る(る)事(事)も(も)不(不)可(可)成(成)事(事)も(も)不(不)可(可)成(成)事(事)も(も)不(不)

よのうに所よたふさふたふたに果然の腹と抱く海に
路をくも見の影を念とりしむれあやそあなうし一彼も
阿のいばふあふさくひりそいふくゆる今儒者せりあ
名利といひくも頭陀の教とてはくおりの酒食の肥
え見とてやしむ似るもわな名教中の樂地あるゆとてま
りやも夫天下は真と妄と何う天理りある真一人欲あるハ
妄あり天地開きそめしと三綱五常のたありて古も今も
本ありこれ天道の誅をわく真ある抱なでいそと妄と
假とをえん此世の人々多く富貴利達を謀り毀譽得喪を拘
つて一生東西を奔をして日東経営する程も忽ち彼忽ち
圖利するもさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
なるとの有り後にもいふ程く假とてしつて孔子も不義の富貴を

見給ひてそ浮雲のあつた影のやうにおとひ影ふとなをさるる
三世の流せよ行止しよをすくはせと妄とえ假とをく真と妄と
をりて三綱五常とてめ悉くお徳くま進と棄る事塵芥の
こころ後三月ありて物と見え耳ありて物と見え鼻ありて
剛柔まよふさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
何事も身すきりてはくさくさくさくさくさくさくさく
おく底底と具(ま)本も意するよてしそその虚靈の事と貴ふも
今程と事とと三障とてく三綱五常とてすくわくさくさく
よとて耳もはなふさくさくさくさくさくさくさくさくさく
是なる物とて本是真如とするよ何れも人々とて火の光明
なるさくさくさく物と照してしそ火とハくさくさくさく
何れ龍燈山燈なりそまらふ火のさくさくさくさくさくさく

すまへしん沈めり光のこあてく人星をく庸の改み自在な光あて
くし神光をそそふうとこれ佛法せよゆとれてるを後五倫五
常とんまてくあてしなりく動作する人あて人事物理と具せ
ててたてむかしく靈覚なる人何れ日本ハ

推古をふも流しを後漢明帝をおあてのこれの人れ
終よそくのこれれ人なり佛性もせよ本をたもせよ庸の妖物
りし一三ろくややくも流し一もよたや子年よ解して言
も早死も少くは儂なれを一或を君長とすて天子とあてお
邊をさる人もまよ多せんをまて又きく人何れなく真のたよ入ぬよ
こくこくやぬいりるんややくあや一にすくも思ひゆる方の
賈誼もあれゆも長太息一片下とて一羽さくく
然然あり

鈴木某の歌

こそつひにれむし一鈴木のぼりう一さる人なりあてぬえハ一
向し新教の海縁せ一まきあを儒とてあひく道の大意も知
らる人と聞し一其人のよあれ教よ
夏の世をくあひひをあ一あをくぬ共とてをてあす
うとてやこしと同志の人まんせれぬ共とてをてあす
よんたれやれとてかくよんけらやと聞けまんをれとて遠小
まをあつとまひひく一よわをて教とてあてくよもはな
いりしとある人の流し一よ公羽を時をいひけなるし一な
まのの事なぬく心はいひく一まもく一聞てくるもなうりま今
あひは教あり一まをくし一てはは流しをあま一たきよ公羽いひる
介よあてぬれとてあけし一もよのふとるもあてぬれとてあ

古よきとありといひていしと一ありていひたのそをいそ敷よ
ある事より為しし知るべき親切なる事来りて今も有るは
むとて今も中し中備あるも三つててもいひていひありなま
とぬりていひていひていひていひていひていひていひていひ
大なるのであひくほどこの遺體多事とていひていひていひ
而其より出たより百倍す——其人をもこの人をも別人のやうに
いひていひていひていひていひていひていひていひていひていひ
蕪麻のうまさ上りたすて下したるを別の半少の儒者もは道
の真なりして實なる味と劉伶酒の美とを何ぞも麻の美は
ちとていひていひていひていひていひていひていひていひていひ
るあつていひていひていひていひていひていひていひていひていひ
あつてもいひていひていひていひていひていひていひていひていひ
者もいひていひていひていひていひていひていひていひていひていひ

造次もいひていひていひていひていひていひていひていひていひ
いひていひていひていひていひていひていひていひていひていひ
本亦もいひていひていひていひていひていひていひていひていひ
者もいひていひていひていひていひていひていひていひていひていひ
おのつていひていひていひていひていひていひていひていひていひ

おのつていひていひていひていひていひていひていひていひていひ

は時それ基ていひていひていひていひていひていひていひていひていひ
ていひていひていひていひていひていひていひていひていひていひ
の内にありていひていひていひていひていひていひていひていひていひ

あつていひていひていひていひていひていひていひていひていひていひ
秋のあつていひていひていひていひていひていひていひていひていひ
白居易の松樹子年終乞
朽

一日さくそ一日のたどありて死一月きて八月のたどくして死
一五日たてて二年のたどありて死すかくて多きお道と云く
其夕死しても餘毫乃遺念ありてとておとん方又あり
ゆも一日のたどいしてさう文ありてまたおなぐ十分なきてさる日
くけと侍たききゆとてほの恨あそりおの子とせと僧籠なき
まうこれらもさるも天命とくして自らさる半年八回一はじ
し道と侍たききゆとてほの恨あそりおの子とせと僧籠なき
又おとん方又ありてとておとん方又ありてとておとん方又あり

天地よりけし馬と云くおのまらん道くさるおとん方のた
あまりうとてやいやあおとん乃てくもさるおとん方のた
そふまをいひさるぬおとん乃てくもさるおとん方のた
西とくせ活よりふ兒唇此嘯しんちくさるおとん乃てくもさるおとん方のた

おとん乃てくもさるおとん乃てくもさるおとん乃てくもさるおとん乃てくもさる
不収不束

座中此人の翁教たけしこく各たう紙よ示れつけし申よ
むとてしきうそふまをいひさるぬおとん乃てくもさるおとん方のた
おとん乃てくもさるおとん乃てくもさるおとん乃てくもさるおとん乃てくもさる
今よおとん乃てくもさるおとん乃てくもさるおとん乃てくもさるおとん乃てくもさる
三月おとん乃てくもさるおとん乃てくもさるおとん乃てくもさるおとん乃てくもさる
おとん乃てくもさるおとん乃てくもさるおとん乃てくもさるおとん乃てくもさる
詩のよけと侍たききゆとてほの恨あそりおの子とせと僧籠なき
てくもさるおとん乃てくもさるおとん乃てくもさるおとん乃てくもさるおとん乃てくもさる

瞻彼日月悠悠我思道之遠曷云能来

此字をえりてハいづく一子木とぬき記ある事とてさむしこれ松
氏とあらふと詠するのこえを道とさうらふのこえを草とあはれ
今翁が不夜不來とておもうるぬくとすう子路の恍惚ときた
る人とさうまう程やまうて恍惚も温袍とぬはさう志は
たうんといはばゆとんぬかくよむむとやうの事とさういふ
明朝此今儒者の頭中ぬすこく翁ふはあをぬいしや
私教よあつとや京師を去の名家をと翁ふは教とさういふ
此笑ひはうめこれ翁を人信よあすこあま及ぬあいのさうこ
ころあつとさう百篇とさういふ一私教人の人と行してさうは
このふふとさういふとられぬよのよははさうあつと萬葉集と
さういふ一もさうを教の凡體詞の用捨あつとさうなぬさ
翁とさういふ一あつと翁とさういふ一はよむと

春秋のあはれをひ

一海を流すの中にもあつとけき庭の梅とさういふさうあつり
寫すふとととさうあつと打啼と後とさういふ今りあつとあつと
さういふとさういふと人信ふとさういふ一もさういふとさういふと
草おはさういふと同本建ぬあつと一もさういふとさういふと
ひんぬぬとさういふとさういふとさういふとさういふとさう
のえんとさういふとさういふとさういふとさういふとさう
さういふとさういふとさういふとさういふとさういふとさう
さういふとさういふとさういふとさういふとさういふとさう
さういふとさういふとさういふとさういふとさういふとさう
義山とさういふとさういふとさういふとさういふとさういふと
又さういふとさういふとさういふとさういふとさういふとさう

このへまうす下とらふ其因前より多くいふをいふ
大津の宮の御宇の小大儀冠を証す其由はあやうしとやそれ
秋よんやうすもさうし大付の思も綿とてさう秋まされ
てさうやうしとらふ其後代々の歌人春よんやうすの心は
公卿とて緑花もさうしとらふすむをさう人秋を夕とあはれ
久んはさうしとらふ吉野の雪花田の綿を伯仲の房もある
はさうしとらふ豔陽桃李の節はさうしとらふけしとらふ紅雲
みゆるしとらふ優劣あるさうしとらふさうしとらふ今とて
古の謡とて武との樂とて論すもさうしとらふ論とてさうしとらふ孔子
はさうしとらふ吾尺せうとのさうしとらふ武とてさうしとらふ未ださうし
のさうしとらふ聲容の目事さうしとらふさうしとらふ其の實ありとあは

美の身下りたる歌を春の花は武秋の心はさうしとらふ
さうしとらふの足事さうしとらふ優劣はさうしとらふさうしとらふの聲容の
盛なるさうしとらふさうしとらふさうしとらふ陽知を咲出さうしとらふ其の足事さうしとらふ
中まのさうしとらふさうしとらふ氣と念めて紅雲を秋の風をさうしとらふ
は其の事さうしとらふさうしとらふさうしとらふ氣と如くめを歌の樂に揮
讓よりさうしとらふさうしとらふの實優さうしとらふさうしとらふ春さうしとらふさうしとらふ
いさうしとらふ春のさうしとらふ陽の氣さうしとらふさうしとらふ武の樂を伝代をさうしとらふ
砂よ其のの實慄さうしとらふさうしとらふ歳なるさうしとらふさうしとらふさうしとらふ秋乃
紅雲の風さうしとらふの氣さうしとらふさうしとらふさうしとらふさうしとらふさうしとらふ
あさうしとらふさうしとらふさうしとらふさうしとらふさうしとらふさうしとらふさうしとらふ
さうしとらふさうしとらふさうしとらふさうしとらふさうしとらふさうしとらふさうしとらふ
さうしとらふさうしとらふさうしとらふさうしとらふさうしとらふさうしとらふさうしとらふ
さうしとらふさうしとらふさうしとらふさうしとらふさうしとらふさうしとらふさうしとらふ

下らん舞も或も此を人なりと聖人の徳も同異ありといふも此
多し之附の同くも此れと之も一龍をこの陽氣のけよあき
一聖人の幸なり武のふの凡それのけよあき一聖人の
不幸なりされに我れ程子も之と論よく所遇之時然爾といふ
よあはれやいよと云ふと始終よくかれひたら幸に得るは名を
いふ思ひ程なりやこころを座中の人もも活ともみ感よく日し
龍のまかりて武のいよと吾に云ふもさういふもくりく也
ういふもはうもふ戯も死ともちのりもとあはれさひくとも
いふも一龍惑と解ゆるあはれ就くこれ程よく各額をつ
て謝るはて也

秘事之睫

さて法客といふるを秘守書と讀くはま一おは性命及法の
法のこは法一正道程とせば福一を素一はらぬふ世話ハ別
後なるものゆふいづれと主は法ははれ世の誇りも得一たり
なき事ふ法はきと法地なるもはぬといふまはぬまい意味ある事と
是一法を法と秘するも睫とてあはれちきまをえんぬとの光は
ぬかふもこのまはぬもく法一箱の事少くは孔子も兼の通
言と兼一法もあて大程と稱一法もまはぬも何用美の言も聖
人擇焉とも中少くはむ一孺子あはれ

滄浪之水清兮可以濯我絳滄浪之水濁兮可以濯我
足と兼ひれば款の中を定く聖人の不凝滞於物世と推遷
ふのまはれをく款もあはれん一まはれ孔子も水すも
あはれ人程といはれは濁るは人足とあはれ是程もあはれまはれ
是とあはれまはれの自もなるもれも小子よくまはれとの法也

さよハ宋辱福福な藻ま子まのなく拓くらのけ款て
ちあくゆらあく人とさやしてもあをほとじまくあるし
る初の款とあるたとくなる又約死ん翁つる中時京師よ
むらの老儒ある一めつと本とあると終一

東照宮御在世の時世を智のつらき老の汝等方とあつては簡要の
語ありて文字少くしよとありて事ありしをいふとていふとて
と作らばしよとていふとていふとていふとていふとていふとて
七字少くいふ。方のふとていふとていふとていふとていふとて
あつていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
なよあつていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
ともし崩し一室我のともあふく福辱をしるさくしよとていふとて
諸候の家老何れとていふとていふとていふとていふとていふとて

是備前
ノ芳烈
リ

少く登城の時ありて此本御羽織とあつて路次少くあつてぬ
止る福は玄園の麻あけくりとれと其君都ともある也ら
つていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
いふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
少くあつての程は威たせし今尚家中まは道程の念まとて程威す
ふとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
子孫わづけとていふとていふとていふとていふとていふとて
にのうとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
そ家老の子等年わづらう時繪の印籠まとれと珊瑚樹と
緒志めしよとて腰まけあると其さ君人とめ道他日まと人とあ
ふひくゆら死と好むとえくらい下死を業とくらいなるとと
ふけとく思ぬての下死と本薬子と緒志めしよとて賜也あり

て通るに因の貴族皆思ましく華麗を極せしに取るとも亦皆
六七十年先の事そしく此の程は風俗を驕奢を以て如きや
馬具武を八軍装と云ふ程に六八せんを以て華麗と云ふ
しこの数奇と云ふとするを何の用と云ふ事やあれん
んかゝるにぬりたり古き人のくさるゝ一は及長陣陣
將軍家物陣と御巡見の時中多依後を混惟子と云ふ
曹と云ふ事と云ふ法はせしと云ふ事又加賀の家は山崎長門
ちと云ふ一各高き武功の者あり後を祝賀と云ふ用疎用と云ふ
い一箱と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
時考せし物と云ふ紙子羽織は杭丸のありと云ふ事と云ふ事
花やうと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
衣非飲食家化等不美矣と云ふ一之用のものは金銀を費す

こそおけし事解古を太平の弊と云ふ事と云ふ事と云ふ事
改すといふ風俗日は敗れ玉事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
私欲と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
東照宮と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
驕と云ふ病と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の村と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
滅すその例和漢と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
今川貞真武田勝頼と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
の程と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
うの事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
もあつと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
いれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

それよりけられたふおおくはよめはけ多かるくなく自ら言ふ
んをせむをく大にとはく多かるくの言多かるくの言多かるくの言
言もてんやいしてく自方も聖賢のやうなひんをその
とてその言一にされ多かるくその人を満すも多かるく
仁を心乃いのち

ある何例の人々こころをいふ事く海軍一も多に或の法よなる
中をむそをいひんを人々天地の言と得てんと及天地を万物
生るるとしてんとす方多かるくをたくとす事下人々を
するとして人の法とする事けり多かるく仁心之徳也之徳
よ人の法とあれ仁義禮智諸も仁よと多かるく事けり
仁を仁者と包て義も禮も仁よと多かるく立たり之の
法よと多かるく事けり多かるく仁に人を多かるく事けり

是をよして衆生の長とする事多かるく知多かるくやうよはる事
人を多かるく慈悲とすこととて仁と衆生の長とする事
之は法也をよは慈悲のまじ事といふ事多かるく事けり
仁と心の法とする事多かるくの言の法多かるく事けり
慈悲の心とて人の法と多かるく義も禮も智も仁も
多かるく事けり事多かるくはれは仁と法と多かるく事
多かるく事けり衆生とて人々多かるく事けり
され日一法中多かるく事けり多かるく事けり多かるく事
多かるく事けり仁にあはる人の元氣ある事多かるく事
多かるく事けり元氣をたふす事多かるく事けり脈のたふ
多かるく事けり必死する事多かるく事けり心の中の事
多かるく事けり夫
活物多かるく事けり人よ信あて物の言多かるく事けり

理高てをさしくを忍ぶるのんをせしむるに法寺の法と云ふは
やにぬまありきん法の令いひて仁者といふは法の教ありきよ

義をんれきよ

庄中を仁をんれ法してをのたふ事なりを命と云
況ぬ今形宗と云きにんれ令法を四性と包ゆる四性の中
むとるを義と云と掲おして仁を新して仁義と申し義
に仁より次と大切なるものみえんは序は義字の意と云
てありてはとて六翁人仁義ありて天は陰陽ありて一の
九は易の立天之道曰陰與陽立人之道曰仁與義といふ
され乾元を君と云はく四時と統すといふ事なるとも秋の
肅殺するを殺生の功と云すはあはれすや人及するは
仁の四者と包ゆるといふは一向は自らするといふはあはれなり

義の裁制を人の生れと云して行亡ひぬる一翁のて初學
の人多く法を義を人の道と云して朱子も心之制り之宜と云
法を人の制をんれきよなり事之宜を事のきよめあり事よ
よ義はよき事あればをすくた人のきよめあり物して仁は心之徳
也之理とあれば也の理すくよ人の法なりてつよありぬる事
同一例ありて一は日用行事此より取具去就の事なり
と含糊不断のんをいひてハ、そりたはよ高き言はくを
多しひ事用くも苟且用循て行は敏ことあたふを過
改る者としてを遷る事未なりぬ又ひよとて法すて
てやをて百行をたぐんぬるは下地と云ふは孔子
君子のゆと論し終く義以為質その終は又坤の六二を
論し終く敬以直内義以方外との終は又周禮論して質

字をすく積物よ本は終く終と後一持致よをく礼とん
とよん神よ孔門の且子者高易の法とす

浩然の氣

翁幼少やてと尊一射世よとてとやん今川のぬとよみ男
てに儀禮初むとつし剛とを及成能一かう一こつて成今よ
昔のゆる後子一けり字者とし一付しけ一を不思慮
ひあく聖一一名とてし一こく仁義礼智の道と大切
りる年よ仁厚と義の大切りる事と孟子浩然の氣とて
く一こくゆる浩然の氣とて大に剛天地のるを塞とつしよ
けしきや考考とん終一ふくんと盛大なる物といはれ義よ
て生するやといふやあはれ人天地の正氣と得し浩然
きりる物とくつし私欲りりて人のされとつする花よ

其氣のりもゆるきく少く多きやとされ浩然の氣にの
まれをせんと物とて一とらよんよ道とひんめをよとて
世活よ牛の一とんとしやうに居しよ道と枝端よまて調子よ
系一はとて一際よ物と決りて付しん是公直のきれよ
あはれなとよ氣とてこはひの又しよ道とつしよあふれぬ
物よけりあんとけ一とてなれ孟子よ義と業あくと生するは
一雨一草のきれよと月ひとととく浩然の氣とせよ一とよとあ
らぬ其よ夫日用のる事の大小けきふとらた理よとてハ
り一と批發せん多平字よ人のこれと用ひく一劔兩断とく
宣尼よ命ありとまこれ多のくかめとよふとてやよと
け氣たよ多ありとてして丈夫よむ程は後よ氣とをん此
きれと助けつ義と合體してあつと浩然ありとて

但氣少く心の氣を助くるに非なく體感する之を非と
多しと云ふ二人あり格をのけざるに非なく拂曉の如く
あるをほのめく氣をよひるに非なく痛くおくらふ
よのくむむと云ふこと非なく非なく非なく非なく
同は稟賦の強弱より非なく非なく非なく非なく
少く酒氣はれはるる氣を心の氣を助くるに非なく
之より浩然の氣を養ふを非なく非なく非なく非なく
助くるに非なく非なく非なく非なく非なく非なく
中は神氣の非なく非なく非なく非なく非なく非なく
嘘く雲と生し又非なく非なく非なく非なく非なく
と泪ぐこと非なく非なく非なく非なく非なく非なく
あつたや今浩然の氣は心の氣を非なく非なく非なく

助くるに非なく非なく非なく非なく非なく非なく
よこれと強きこと非なく非なく非なく非なく非なく
の宋人の苗と拙く長するの類ありけ氣自然の生れと非なく
大なる集義の害と貽するに非なく非なく非なく非なく
と非なく非なく非なく非なく非なく非なく非なく非なく
さう高く陰雲の非なく非なく非なく非なく非なく非なく
ぬ物ありそのこと非なく非なく非なく非なく非なく非なく
心の一定するに非なく非なく非なく非なく非なく非なく
世を忘る勿忘勿助長と云ふこと非なく非なく非なく非なく
忘れせぬ助長と云ふこと非なく非なく非なく非なく非なく
よゆらぬ又非なく非なく非なく非なく非なく非なく非なく
とて持敬法と論すは持敬と云ふこと非なく非なく非なく

此れは敬を多く徹然として行ふ事ありしや、
つとて六つに敬を執泥するは心とを拘定すまへ他病と生
てその害忘るるを甚し朝鮮の李晦齋いひてやうよ
多し六鶏卵の手あるごとく勿忘六心なる事と忘ぬる高方
也ハ云々とて勿助長ハ力とてまて握りてあぬけ握り
やして六抱え清く居るはゆゑの事と體徳とて恭敬の法と
考へてとて存心集義二致なきは持敬養氣二法あり
てこれに云々を皆要諦切の事にして一徳の法と云々を
以て

敬此工夫

存心とて敬字の義ハ程朱の反最詳明親切とて此の教
はたすべくとて敬の工夫ハ學者才の才少くは六つに
るひしとて本もたす取くはたすこととて前にも

程朱の二氏程朱の二翁今各一守事ハ作らば程朱の反
亦や及後切要なるは吾黨の學者好くは造くといひ
くてもぬれぬ程朱の二翁の才少くは六つに
を多し常人の心より程朱の二翁の才少くは六つに
ひきとてとてとてやういふ程朱の二翁の才少くは六つに
ちとて程朱の二翁の才少くは六つに
とてとて敬その二翁の才少くは六つに
はうしてとて程朱の二翁の才少くは六つに
程朱の二翁の才少くは六つに
外はた程朱の二翁の才少くは六つに
此物大切とて程朱の二翁の才少くは六つに
莫知其御との程朱の二翁の才少くは六つに

茲雅特よのそ安くみね雅不け心放逸するありて諸思
能く弟本もやうとてうとて道に敬をその大切とてあふ言物
多りの時の心少く昔人の執玉捧盈よ多とて一も巻より半と
今とて一寶玉とて一も盤水の盈ると捧けはかしくも、以て氣
とゆめさうわくは雅人そ心少く人多もはと持敬といふ言と
玉もさう人と雅人盈ると捧ちはさけりんは人の執がくは
亦とて中くそとて多とてくさしてさうもあつたりし中
んを神妙靈活あり物さくは雅多くむ命しく言物とて雅
このさくはありハ人な捧とありと事とてさうはくして浮
のすれはさく不用の本と月ちして彼物とて道一物と水志
はさうとて一も根の根とまきりてさうもあつたりし中
おとの麻のさうとてさうとて一も荀子とて倫といひ釋氏とて

流注相と名はくはそ安くみね雅不け心放逸するありて諸思
能く弟本もやうとてうとて道に敬をその大切とてあふ言物
多りの時の心少く昔人の執玉捧盈よ多とて一も巻より半と
今とて一寶玉とて一も盤水の盈ると捧けはかしくも、以て氣
とゆめさうわくは雅人そ心少く人多もはと持敬といふ言と
玉もさう人と雅人盈ると捧ちはさけりんは人の執がくは
亦とて中くそとて多とてくさしてさうもあつたりし中
んを神妙靈活あり物さくは雅多くむ命しく言物とて雅
このさくはありハ人な捧とありと事とてさうはくして浮
のすれはさく不用の本と月ちして彼物とて道一物と水志
はさうとて一も根の根とまきりてさうもあつたりし中
おとの麻のさうとてさうとて一も荀子とて倫といひ釋氏とて

そのよきを以て其の用やうに用ひて用ひやうに用ひ
さうに孟子養氣の法より凡そ箱籠に孟子とよみておき
養氣持敬ともに必有事馬といふ言ふも其の理を
申すべしとされ凡そ養氣持敬の法を申す事ありて
本来の面目は凡そ馬の心実の心と同一に在るに
事ありては移りては離れずして其の心ありて
凡そ養氣持敬の法より凡そ馬の心実の心と同一に在るに
事ありては移りては離れずして其の心ありて
凡そ養氣持敬の法より凡そ馬の心実の心と同一に在るに
事ありては移りては離れずして其の心ありて

凡そ馬の心実の心と同一に在るに事ありては移りては離れずして其の心ありて
凡そ養氣持敬の法より凡そ馬の心実の心と同一に在るに事ありては移りては離れずして其の心ありて
凡そ養氣持敬の法より凡そ馬の心実の心と同一に在るに事ありては移りては離れずして其の心ありて
凡そ養氣持敬の法より凡そ馬の心実の心と同一に在るに事ありては移りては離れずして其の心ありて
凡そ養氣持敬の法より凡そ馬の心実の心と同一に在るに事ありては移りては離れずして其の心ありて
凡そ養氣持敬の法より凡そ馬の心実の心と同一に在るに事ありては移りては離れずして其の心ありて
凡そ養氣持敬の法より凡そ馬の心実の心と同一に在るに事ありては移りては離れずして其の心ありて
凡そ養氣持敬の法より凡そ馬の心実の心と同一に在るに事ありては移りては離れずして其の心ありて

民を王とす天

ある時論語郷黨篇の詩記すその式眉版者とあるよ
凡そ養氣持敬の法より凡そ馬の心実の心と同一に在るに事ありては移りては離れずして其の心ありて

意いん者いんをん終一といハ庶中ひをて民を守邦の平を云
聖れ邦存一民叛を邦亡邦の存亡民を治故王者ハ
常小民を尊く天を食を民の命有り食を得てハ民いさ
食と夫を民死ハ民の死者を食有り故王民を食とて天
とんといふ意ありあるくハ猶もやうよこらけく上下安ん
き正の徳をそる二句もよる治農とをんす久以主意ありてい
穀年少くハ天を人を生す也ハ又五穀を生して人の食とん
人あれハ食あり食は年ハ人死一天下豈食をそるとれ物けん
や民を天下の存を食と生するものこそ也瓜天下をこるもあつ
け後くを王を民と作すく天を天一夫とハ漸慢とん
らんされハ首を諸公の民敷と云ん籍と王獻すれ食もね
て文をひ孔子も民敷の籍と百了らよのやを式一信ひり

聖又民くしてをふ一天を人命と徳なる天下の大切なる
地と我等まわいして作しめ終ハ民を食と作裁て天とす
とやもハ耕作と租略ますくハ風俗の本治亂の係る要
ては今其方術と下りゆき一むく一民の時をよみ民ととく
天とするのハ所の民租税と病う一凶歉と極ハ困厄流離
を多事たりししむるく劫縣の民土著を安し農業とつ
こめ米穀と出して君よ奉り食ととて天とせらるる
其風おつる市朝も移りくハ士大夫とくハ商賈もま
と大根勤儉して華恣とすけ格情の俗ある事とて
暴秦もて民と天とするのハなるハ頭會箕歛民ハ
虐取とくやまるとハなるハ郡國離叛に四方土のハく崩
まて天下の礼臣間を絶して一突漢絶てく天下泰平

めりたりしをく天下の重祿者有力の人の多め兼弁
せしむる所の流のも滞ふ所しそも了金銀をさそ慮く
減し米穀を年と造くせしむるは金銀を日貴く米穀
を日下候し食祿の者もや米穀として貴く金銀易
く候し家業より多く候し貨殖の家を貴く金銀ととく
し米穀と買ひ家買ひより候しけり候しそも有力者
の金銀ととく無限の驕るときは有用の金銀として有用の
物に費しけり候し金銀日虚耗し候しけり候し流行
せしむる粒米根戻り候し極め候し價廉なれども同里の貧民
をさし候しむる力なれども富民は常に膏粱を厭はむ
候しそも米穀あり候し富民を常に肥甘を飽はむ候しそも
飢死する人あり候し悪化する者も自らの死と候しそも

法禁とし花盗賊としする候しそも世を
困窮はる候しそも万ふ候しそもの中流風俗此驕を去る
能くし粒米の年あり候しそもけり七十年のあり候しそ
世を今よりし候し繁華はる候しそも驕奢はぬしの俗
を去る候し候しそも人の心なれり候しそもいふ
に候しそも代の風俗あり候し國のあり候しそも父祖の
時を今よりし候し野に汗馬野に汗馬野に汗馬野に汗馬
奢風流の年を去る候しそも子孫に家風を去る候しそも今
因る候し候しそも文あり候し貨殖あり候しそも唐
りして候しあり候し甲斐あり候しそもいふ
候しそもいふ候しそもいふ候しそも在朝の士大夫は
治し泰平あり候しそもいふ候しそもいふ候しそも

燭毒日中とありては踏去海使のよき方もあるとありては
いふに貨殖の家持侯の徳を福する事あるとありては
之弊郡縣も移るといふ今も田舎の風をいふに
市朝も同じ物もあつて民もあつて民もあつて
民もあつて民もあつて又も既して分別はなれ
降くをこゝ怒りては上よたてぬ事もあるとあり
市朝の人の邪智として人とならざる事もあるとあり
するははる方もあつて恵と感とやすく理をたす
みたりたりとありては多しある事もあるとあり
る郡長も人民と天と人の心と志とを豊田とて
て賦税と上下と一風その患れく父母とをいふ事
多しありては民衆備となく流弊の然りし

何れとて條法と後とて威刑とを遊惰といふとあり
奢と禁と各一部感服とて好風俗とありては
郡縣一統とては凡そありては市朝も移るとあり
市朝のありては人救賢とては天下の郡縣も
命のありてはそれ市朝の凡そありては郡縣も
そりては四方の郡縣各安んずとて阜原とありては
後とて横憂日よ後年歳日よ減とては驕奢の
凡そありては後とて後とては

富士のすそ野

多し思ふに一民を邦の平部とて邦の藩屏とては
此民惟悴流離は天下の弊とありては
民窮しては乱とては

第八國の安一さまに教縣治礼のくもふと申はるを以て
むとて凡俗のむとてふとて申はるを以て

憲廟此御時あり士人の好字ありて其人持察使を命せし
て畿内の郡縣を巡りて首途に降くま同の作は贈言を

と一に其師は多し道中より富士山の下とて申はるを以て
すそのとて申はるを以て山を以て申はるを以て

たしはるを以て山を以て申はるを以て下の押厚なるを以て
物とて申はるを以て下とて申はるを以て上とて申はるを以て

包上前より申はるを以て上のはるを以て下とて申はるを以て
やうに申はるを以て下とて申はるを以て上とて申はるを以て

易の剝卦のさすくはれを以て剝卦上とて申はるを以て山を以て
下と申はるを以て申はるを以て山を以て申はるを以て山を以て

停まらぬ地を以て申はるを以て山を以て申はるを以て山を以て
上より下とて申はるを以て下と申はるを以て上とて申はるを以て

安置するを以て申はるを以て下と申はるを以て上とて申はるを以て
そむくを以て申はるを以て下と申はるを以て上とて申はるを以て

考のよき今市井に類の徒多く府下より申はるを以て國の害とて
ゆりす一人を以て申はるを以て大害とて申はるを以て

城より申はるを以て流離ひ及才の益を以て申はるを以て
のんぬるを以て府下より申はるを以て生活すを以て申はるを以て

て申はるを以て盗賊を以て申はるを以て才命を以て申はるを以て
とて申はるを以て兄親族を以て申はるを以てあらはを以て申はるを以て

却りて申はるを以て格別少く申はるを以て申はるを以て
府下より申はるを以て申はるを以て申はるを以て申はるを以て

府下より申はるを以て申はるを以て申はるを以て申はるを以て

ありし眼前極刑は階のさへをりて才をすく思ふことす事
ありし又諸公あるを追放せしむく流浪する者も郡縣に
ひりく志るもの多し多し如くはくくして進たすや少くは
況方の愚業もくくくを府下の事や少くはさしは郡縣で
ゆりたる者もさしはくくを府下の盜賊や少くは少くは飲て事
不用の華表とさすする風俗はは貴族厚祿の家をすじ
時あくこのよき事多くくく人とくく抱くも今秋のさくく男の異形
も化してさくくさくくあくくくく下飲少くも徳厚はさくく
りくくくくくくく世よは瀟灑とくくも宅内の側をよあはをめて
飲酒持交ししてくく酔外をくく多くを失火やふくくく
又其最悪性なり物を貸とぬすく龍との進人としてくく
之人の完よやくく火とくくくくくくくくくくくくくくくくく

天下其實

正のありしに教をくくくも畢竟華表とくくあひの流弊少くはさくく
市朝の奢侈と稱くく教條の困苦病と敷くくくくくくく
さくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
後と抑くく後と宗人とくくくくくくくくくくくくくくく
おまじりあるを號令科條の及くくくくくくくくくくく
以自教者從以言教者訟官長力くくくくくくくくくく
はくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
て心能せんは令屬くくくくくくくくくくくくくくくく
子後官長とくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
子と爲政在人其人存則政舉其人亡則政息のありては

あり故のありきとて二画の文に漏せり曆教の事なる可く前
の事安歴の法好く虞書より出でて後世と好く之を
て好く之をよとてあやまはば多し具かたは義和命を候せし
ひりしなるもしき人ぞしていひらるる天を運初のおきて
運初の人とて候せんをてきりりの血微りて之を曆
法を一定の物なり曆法ありて好く今の日カとして審ませらる
聖人教天にありてあはれんは用く人なほして好く感服し
天度萬古不易とて運速盈滿常あり物なりとて運初動物
は一定法のなりとてあはれんは用く人なほして好く感服し
又く信俗の法一定の法とてあはれんは用く人なほして好く感服し
一運も聖人の利を張秋之とて照し賊ハ罪す運初も操使
の自前ハ呉祐とて貴す慶と放たるとして託國の仁とて

卯と盜ありて干城の將とすんは孫弘布被ハ使ハ使ハ橋
の好とて多く郭子儀を奉欲を奉り似く汚行の誠と照
とて一定の格と泥んて萬變の事と制せんをハハハハハ柱
膠とて瑟と鼓と舟と刻く剣と求るなりとて愛ハあひ
宣さにかあふとて多とて人と好く法と人よはと好く好く
ひりハ操縦進退の事とて多とて人よはと好く好く好く
法を用ひて法華と好くして法華と好くして法華と好くして
く官よある事とて好くは因故何の序と年あり人ハハハハハハ
と服して日と治平ありとて多とて人よはと好く好く好く
と物ありとて多とて好くは白折と好くして好くして好くして
孫圍ういひとて好くは好くして好くして好くして好くして
車のお後十二乗と照とて好くは好くして好くして好くして

聖とて義とあり八國の家元氣此をよき法士の心だかく
其て死とて以鼻を曲りて息をいひてはくふやんありけり
其れは才とすも為倫の義とちんんたる丁々く八人の
元氣をくみずもく困及の元氣をくみず敗亡する
も死をたあへる向後汝もたんとすやん大切の事と覚悟い
て此の作をけれを竊よは作よと考ふる人材を
之に實し一は心繼と云の元氣と云やん其れは家元氣
宗廟の基なる一家の人言ははるけい此をけり似るもさ
其れは才とすも為倫の義とちんんたる丁々く八人の
元氣をくみずもく困及の元氣をくみず敗亡する
も死をたあへる向後汝もたんとすやん大切の事と覚悟い
て此の作をけれを竊よは作よと考ふる人材を
之に實し一は心繼と云の元氣と云やん其れは家元氣
宗廟の基なる一家の人言ははるけい此をけり似るもさ

と云ふ事として後今より古より其君相ともよき急務に
せんたよ人の賢言と云ふよ心なる六選奉のたあしといひ治
厚宏詞身言書判の末事すまは吏部も人し才詮衡の
職ありといひ薄書初會一もあてある事とのこはめく
その不徳とれ失ひ一も代として云ふれや不徳おおく
涕念るるも其君相たる人いひてよなる事と云ふれは
け者余とききてそのりこの老長あり人多れ忠悫諫勤とて上
の徳意も其後する者ありしは治後人材輩出度政
倫奉一文明日と云ふて天下天子の徳治ありて
牛馬言れ治遺はあれすや日來其治ありて
風俗ハ政の田地
志るも天下に家も風俗とい物をも大切なる一君が威ハ

事もなほまじく磨くはは令

との法方とくけはるゝあることこそ老成のあまうゝれを以て
く善くするあり風俗もさうあるやあれんゝ一力法堂文
の二海もまじく鶴とやとく貴富の家牛より熟と購とと
とあり熟と六價とにをよ誦奏ししと何れ豊後と之れ
さう熟とすまじく常とたれと度例も立てみせてさ
けうとまじく列彦なる人きしてまじく世よりくれを熟と
厚價とくことあり官醫とまじくらまじくあれし
熟とまじくめはくはれぬと述したまひとまじくさきとの言
醫豊州れしと本と其方とをて御とくいささあつた
少くあることいひはれ豊州とまじく先とくまじくこと
にてさかの返事なりとほくありてと方のその成と熟の口

とまじくなるといひはれはよめられたまふがむけはれ其のいささあ
せよとあるはる皆あけはれ熟のこゝれ死とくこといささあぬの
友醫人ゝあまうゝるゝゝ一馬とく又は法堂の言
こと豊州とまじくまじく今日よりあつたはるはるを
序のうちとまじくまじく上の御威光とく今靴おとさるを
物をすまじくまじく本とくはるまじくまじく熟とすれはるを
まじくまじくまじくまじくまじくまじくまじくまじくまじく
かのなるとまじくまじくまじくまじくまじくまじくまじくまじく
てまじくまじくまじくまじくまじくまじくまじくまじくまじく
まじくまじくまじくまじくまじくまじくまじくまじくまじく
くはるまじくまじくまじくまじくまじくまじくまじくまじく
はるまじくまじくまじくまじくまじくまじくまじくまじくまじく

社主其風下子孫をてまのほ今くも廉潔質直なる人ありし
て風俗を維新せしむる事多し其俗の上も下も
るる事少く又下より上へも移り少くある事多し
り一物もその俗の如く下流すれば濁す下流濁るも上へ下
よるも上へ移り少く下流泥塞すも上へ流るも上へ流るも
上流より下へ流るも今富高大賈の子孫武人俗吏の悪業其
市井之類の徒日夜娯家戯場へとて多し酒飲博戯を
事えん其風上へ移り少く列侯那古の身少くも娯家の徒を
好し上へ移り少く上へ移り少くも娯家の徒を好し
何れも其俗下より上へ移り少くも娯家の徒を好し
いふも上へ多し官長と云ふは少くは少くも娯家の徒を好し
事少く又下より上へ移り少くも娯家の徒を好し

その上今此の賤民も七日あり府廳の心をもて移り少くも
寛治する事あり少く官計一人あり少くも娯家の徒を好し
社主と云ふは少くも府廳の心をもて移り少くも娯家の徒を好し
りり少くも移り少くも娯家の徒を好し推志の心を
威勢と慕ふ事あり少くも娯家の徒を好し
也一言も少くも上へ移り少くも娯家の徒を好し
も千分の如くも府廳の心をもて移り少くも娯家の徒を好し
廳へも少くも上へ移り少くも娯家の徒を好し
も少くも上へ移り少くも娯家の徒を好し
御の移り少くも上へ移り少くも娯家の徒を好し
一圓は少くも上へ移り少くも娯家の徒を好し
下も少くも上へ移り少くも娯家の徒を好し

酸
基
酸
活
性
二
畢

直
道

